

## 令和4(2022)年「正覚寺報」11月号

### お知らせ

今年の当院の報恩講も無事お勤めさせて頂きました。お陰様で二日間ともよいお天気に恵まれました。ワクチン接種が11月に切り替り診療所の駐車場も利用させて頂きました。

山本 泉茂布教師様にはお母さんとのご縁でお育てに与ってこられたお念仏の人生の御法話をお聞かせに与りました。

御門徒の皆様には賑やかにお参り戴け誠に有り難いことでありました。

#### 記

11月6日(日)19時半 佛壮お聴聞の会

10月19日(土)19時半 佛婦例会 住職の日程が合わず19日とさせて頂きます。

### 奥深い報恩講に恵まれて参りました。

新発意が海外開教使としてブラジルに赴任したことがご縁になって、山本泉茂布教使様、住職は、現地仏教婦人大会を訪問御支援させて頂いた意味で同じ関係を戴いております。今年、その山本泉茂布教使を報恩講ご出講にお迎えして四度目でありました。布教使のお母上は、人生どんなときもお念仏を絶やされることがなかったとお聞かせ戴いております。いわば、山本さんは、お母さんのお念仏でお育てに与ってこられたのです。山本さんは、夜になるとお母さんを診にお訪ねになるそうですが、却って五十六才の息子に九十一歳の母親がお布団をお掛けになるので、山本さんは気づかないふりをしてお布団を掛けてもらっていらっしゃるそうです。

山本布教使には、令和六年度の報恩講にご出講戴けるようお願いしたばかりです。

令和五年度は、藤澤 信照先生に三度目のご出講を戴くことになっております。

先生には、新発意がご本山での百日の布教使研修でお育てに与り、音楽でもご造詣が深くサンパウロ本部の新発意とはネットを通して繋がって戴いております。

先生は行信教校の講師をなさっていらっしゃいますが、師匠の梯 実圓勤学和上が行信教校の校長先生だった頃、住職は南米訪問に当たり、「失敗してはならじ」と、事前にご相談にお伺いし「お念仏は、如来様から賜るお慈悲であり、聞こえて下さるお六字は、如来様が本願のお心から喚び続けていて下さるお喚び声(本願招喚の勅命=ほんがんしょうかんのちよくめい)だから、決して難しいものではないとお聞かせ戴いたことを昨日のように思い起しております。

コロナ蔓延の三年は、悪いことばかりではなく、世の中ではネットコミュニケーション手法が定着し、布教団の「真宗講座」では、森田眞円勤学の「善導大師からのご縁」に遇わせて戴きました。善導大師は、お六字の「南無阿弥陀仏」の南無と帰命する一念のところに「発願回向」の心があり、「発願回向」は、阿弥陀仏が因位の時に誓願を起こして衆生に往生の行をお与え下さった如来様の慈悲心とされ、「即是其行」は衆生を救うために如来様を選び取られた本願の行とされるのであります。お六字の「帰命」「発願回向」「即是其行」はすべて阿弥陀如来の働きそのものだったので、合掌